

四賀ガルテナーの楽しみ

ガルテナで何してん!?

アンテナ伸ばし気の向くまま わくわくチャレンジ重ねて

坊主山クラインガルテン 335号

笹島 継男 さん

「テラスでコーヒーを飲みながら本を読むのがお気に入り」という笹島継男さん(63)はガルテナーになって2年目です。2011年4月に通い始め、野菜作りはもちろ

秋は干し柿作りに挑戦しました。初めての冬は、大町市の鹿島槍で10年ぶりにスキーを再開し、夏には収穫したトマトでジャムを作るなど、気の向くままに過ごす日々を

「本当に楽しい」と、満面の笑みを浮かべます。

山登りが好きで、日本百名山では男体山、霧島山を残すのみという笹島さん。「百名山全頂制覇は楽しみに残し、今は県内の里山歩きをしています。ガイドブックで情報を仕入れておき、天気の良い日は、急に思い立って出かけることもあります。日の出から13時間歩いた日もあります」と、楽しそうに話します。

「ここを拠点にやれることがたくさんありそうで、それを見つけたのも面白いです。リンゴ農家のお手伝いもそのひとつ。リンゴの実に陽が当たるように葉を摘んだり向きを変えたりする作業をしました。地元の人と話したり採れたてのリンゴを味わったりして、とても楽しかった」と振り返ります。

「3年ほど前から、退職後はやっただことのないものに挑戦したいと考えていて、野菜作りに挑戦できると、山にも登れるここでの生活を選びました」と笹島さん。昨年9月に退職し、冬期以外は月の半分をここで過ごしています。「横浜で暮らす家族の理解のおかげですが、滞在10日目くらいになると妻

の顔が見たくなります」とほほ笑みます。

「この夏は、朝採りしたキュウリやナスなどの夏野菜を家族や友人に届け、喜んでもらいました。パリパリした新鮮な野菜は最高ですが、ここは水道水もとてもおいしいんです」と、自宅に帰る時は2リットルのペットボトル6本の水を忘れません。冷やして飲んだり、コーヒーを淹れたり、妻の淳子さんが料理に使ったりもするそうです。

淳子さんが坊主山に滞在するのは1週間くらいです。4回ほど。「横浜からは遠くても、ここからなら手軽に行かれる観光地がたくさんありますから、ここを拠点に妻と旅行に出かけたいです」と笹島さん。2年目の秋も家族が心待ちにする干し柿を作りました。これからも、ガルテナーとしての楽しみは無限に広がるようです。

